

看護実践報告書 評価項目・評価基準

【目的】

重症心身障害児者及び家族に対し、熟練した看護技術及び知識を用いた専門性・個別性の高い看護を実践し、重症心身障害看護師としての役割を遂行出来たかを検証する

【記載内容】

個人、家族に対する直接的な看護実践の事例を1例記載する

- ① 実践テーマ
- ② 実践の対象の概要
- ③ 対応を必要とした問題点・課題
- ④ 具体的な実践内容と結果
- ⑤ 評価と今後の課題

【作成時の注意事項】

- ① パソコンで入力
- ② 文体は常体「～だ・～である」に統一されている
- ③ A4紙縦使用横書き、文字サイズ10.5ポイント
- ④ 1行の文字数は40字 一行の行数は40行とする
- ⑤ 下段中央にページ数をいれる
- ⑥ 文字数4800字～6400字、文字色 黒、最後に後ろ揃えで(〇〇〇〇字)と文字数を表記する
1行目に中央揃えでテーマを記載、2行目から本文に入る。*施設名・氏名は本文に記載しない。
施設名が特定される表現は避ける。内容に倫理的問題がないか確認しておく。
テーマの字数と参考・引用文献は本文文字数に含まない。
- ⑦ 参考文献・引用文献の記載方法は「重症心身障害児の療育」の投稿規定に従い、文献は重要なもののみとし、引用順に文中に番号を付ける。文献は論文の最後に引用順に一括記載する
- ⑧ 参考文献で読んだ他人の意見と自分自身の意見を明確に区別して書く。
参考文献・引用文献は明確に区別する。

【評価項目とそのポイント】

規定・形式	① 指定された書式が正しく守られている。 ② 文字数制限が正しく守られている。
実践内容	①重症心身障害の特徴、年齢、発達段階等を踏まえた情報収集を行っているか ②得られた情報を適切にアセスメントしているか ③対象の個別性が反映された計画が立案されているか ④専門性・個別性の高い看護の実践をしているか *③④は対象者の権利擁護、自己決定の尊重、安全かつ安楽な看護ケア、QOLの向上、他職種との連携等を含む ⑤看護実践の評価結果を踏まえた上で、今後の課題を述べているか
論理性	①テーマ・対象・計画・実践内容・実践結果・評価に一貫性があるか

【評価基準】

- ・1つのレポートを審査員2名で審査する。
- ・規定に沿って記述されていれば10点を付与するが、規定に沿っていない場合は減点の対象とする。
- ・実践内容については項目ごとに4段階で(6点:非常に良い・4点:良い・2点:やや悪い・1点:悪い)5項目合計30点とする。
- ・論理性については4段階で(10点:非常に良い・8点:良い・6点:やや悪い・2点:悪い)で評価する。
- ・審査員2名の合計点が60点以上を合格とする。
- ・審査員2名の合計点数の差が20点以上の場合は審議する。

教育的支援報告書 評価項目・評価基準

【目的】

看護・療育スタッフに対し、高い倫理観と熟練した看護技術・知識を用いて教育的支援を行い、重症心身障害看護師としての役割を遂行できたかを検証する

【記載内容】

看護・療育スタッフに対する教育的支援について、実施した1例を記載する

- ① 教育的支援のテーマ
- ② 支援対象となった看護師・療育スタッフ(個人・集団)
- ③ 支援を必要とした状況、背景
- ④ 支援内容(方法を含む)と結果
- ⑤ 評価と今後の課題

【作成時の注意事項】

- ① パソコンで入力
- ② 文体は常体「～だ・～である」に統一されている
- ③ A4紙縦使用横書き、文字サイズ10.5ポイント
- ④ 1行の文字数は40字 一行の行数は40行とする
- ⑤ 下段中央にページ数をいれる
- ⑥ 文字数4800字～6400字、文字色 黒、最後に後ろ揃えで(〇〇〇〇字)と文字数を表記する
1行目に中央揃えでテーマを記載、2行目から本文に入る。*施設名・氏名は本文に記載しない。
施設名が特定される表現は避ける。内容に倫理的問題がないか確認しておく。
テーマの字数と参考・引用文献は本文文字数に含まない。
- ⑦ 参考文献・引用文献の記載方法は「重症心身障害児の療育」の投稿規定に従い、文献は重要なもののみとし、引用順に文中に番号を付ける。文献は論文の最後に引用順に一括記載する
- ⑧ 参考文献で読んだ他人の意見と自分自身の意見を明確に区別して書く。
参考文献・引用文献は明確に区別する。

【評価項目とそのポイント】

規定・形式	①指定された書式が正しく守られているか ②文字数制限が正しく守られているか
実践内容	①教育的支援のプロセスを段階的に整理して記載しているか ②教育的支援の必要性をどのように判断(アセスメント)したかを述べているか ③支援対象の個性が反映された支援内容(方法)であるか ④支援対象に対して役割モデルを示すとともに、具体的な支援が出来ているか ⑤実施した支援内容の評価結果を踏まえた上で、役割モデルとして今後の課題を述べているか
論理性	①テーマ・対象・計画・支援内容・結果・評価に一貫性があるか

【評価基準】

- ・1つのレポートを審査員2名で審査する。
- ・規定に沿って記述されていれば10点を付与するが、規定に沿っていない場合は減点の対象とする。
- ・実践内容については項目ごとに4段階で(6点:非常に良い・4点:良い・2点:やや悪い・1点:悪い)5項目合計30点とする。
- ・論理性については4段階で(10点:非常に良い・8点:良い・6点:やや悪い・2点:悪い)で評価する。
- ・審査員2名の合計点が60点以上を合格とする。
- ・審査員2名の合計点数の差が20点以上の場合は審議する。